

資料 3

切れ目のない支援の引継ぎの
仕組みづくりについて

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

現状・課題

- ① 成人期まで使える情報共有ツールが無い
- ② 所属機関や支援者が変わる際、必要な情報のアンマッチや情報不足により、支援の停滞が起こりがちである
- ③ 新たな支援者につながっても、障がい特性や支援経過の共有が不十分なため、当事者・家族と支援者間の信頼関係の形成に時間がかかる

めざす姿

- ① 当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」がある。
- ② 各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報共有がスムーズに行われ、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引き継ぎが行える仕組みがある。

取組方針

- 【1】 ライフステージの移行時や支援機関(者)等がかかわる際の、支援の引き継ぎ状況、課題等について、自治体調査及び医療・福祉・教育・就労等の関係機関への聴取りを実施し、実態把握、要因分析を行う。
- 【2】 本市の現状について把握し、多角的な視点からの分析を行うため、本人・保護者のニーズを調査するとともに、各ライフステージで支援に携わる関係機関等に対して、意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析する。
- 【3】 【1】及び【2】の結果をふまえ、共有すべき「情報」支援内容を整理し、「情報共有ツール」の内容を検討する。
地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討する。

取組み内容

【1】（平成29年度）：自治体調査の実施

【調査先】

- ◆都道府県・政令市、医療・福祉・教育・就労等の関係機関。

【2】（平成30年度）：本人・保護者・関係機関等への調査の実施

【調査先】

- ◆本人、保護者、保育所・幼稚園(公立・私立)、公立学校(小・中・高)、特別支援学校、専門学校、短大・大学、企業、障がい福祉サービス・障がい児支援事業所等、児童養護施設、医療機関、区、こども相談センター。

【3】（令和元・2年度）：情報共有ツールの内容の検討、支援の引き継ぎのための仕組みづくりの検討

【令和元年度】

- ◆平成29・30年度に実施した調査結果の分析、情報共有ツールの内容及び普及啓発方法の検討。

【令和2年度】

- ◆情報共有ツール「就学前編」を保護者等に試用してもらい、試用後に効果測定を実施。使用上の意見を分析し、より使いやすいものを作成。
- ◆就学時以降の移行期に有用な情報共有ツールを順次作成。
- ◆情報共有ツールの普及啓発活動を実施。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～平成30年度本人・保護者・関係機関等への調査結果～

- 本人・保護者・関係機関等への調査は、複数の選択肢から当てはまるものを選ぶ「選択肢形式」と、思ったことや具体例を自由に記述する「自由記述形式」を併用して行った。
- 自由記述の回答には、より具体的な内容が記載されていたり、調査者が見落としていた視点について記載されていることから、選択肢形式の回答のみでは、より具体的ニーズが十分に把握できない可能性がある。
- 情報共有ツールの活用希望、事前に情報提供がなかった場合に困ったこと等、生活場面が新たな環境に移る時の引継ぎの際にどのような内容・事項等の情報があれば役立つと思うかについて選択肢形式で尋ねたところ、保護者・関係機関等とも回答に共通した傾向がみられた。
- そのため、情報共有ツールの主な利用者となる保護者を中心に、自由記述欄の回答分析を行い、情報共有ツールの内容検討の一助とする。

～支援の引継ぎのための仕組みづくり～

令和元年度では、調査結果を分析した次の5つの項目に基づき、情報共有ツールを活用した支援の引継ぎが必要な「対象時期」、情報共有ツールの書式や項目などの「内容」、作成にあたって保護者への「支援」、支援者への「普及」の検討を行った。

- ライフステージに応じた情報提供が必要
- 保護者と専門分野異なる支援者間での理解・共有の困難性
- 環境の変化の場面での困難性と情報共有ツールの必要性
- 情報共有ツールは啓発活動の機能もあわせ持つ
- 情報共有ツールの具体的な内容

5つの項目に基づき検討した結果、具体的な引継ぎの仕組みづくりの実現には、次の2つの項目が必要と考えられる。

- 情報共有ツールの作成
「就学」という幼児期から学齢期の移行期を想定し、発達障がい児の保護者が理解、作成しやすい形の情報共有ツールを作成
- 情報共有ツールの普及
情報共有ツールを広く市内の関係機関に知ってもらうために、支援者への普及活動を実施し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

～ 情報共有ツール「就学前編」の試用 ～

令和元年度に作成した情報共有ツール「就学前編」試用版について、実際に使う人にとって使いやすいものになっているか検証するため、保護者に試用してもらい、使用するうえでの意見や感想を聴取。支援者・関係機関等からも意見を聴取し、より使いやすいものに改善を図った。

試用状況

試用者	対象児童	試用状況			試用した保護者の主な意見
		配付者数	試用者数	実施時期	
ペアレント・トレーニング参加保護者	小学校1～4年生	5人	3人	令和2年8月	<ul style="list-style-type: none">・小学校入学時にあれば、子どもの発達の特徴を伝えるのに便利だったと思う。・担任の教師とのディスコミュニケーションで困っていたので、書式が欲しい。・チェックすれば良いので、簡単で使いやすい。大きさや記入量はちょうどよい。・家にプリンターが無いので、印刷した形の方がよい。・「苦手なこと・不安になりやすいこと」は、伝えたいことが多いので、もう少し記入するスペースを多くして欲しい。
発達障がい児専門療育機関利用者、障がい児通所サービス利用者の保護者	年長児	4人	4人	令和2年11月	聞き取り中
		26人	試用中	令和3年1～2月	

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

支援者・関係機関等からの意見の聴取状況

関係機関等	実施時期	主な意見
エルムおおさか連絡協議会	令和2年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・「就学編」の対象は、就学前（年長）からときっちり記載されている方がわかりやすい。 ・保育所園の先生からのコメントを記載する欄は、記載した日付を書く欄があった方がよい。 ・医療情報を記入するところに「てんかん」の有無を入れて欲しい。 ・「具体的には…」にある字がかけ、字が書きにくい、文字が読める等は、入学してから学習する子もいるので、就学編の対象年齢や学年等をはっきり書いてもらった方が、先生にも理解してもらえるのではないかと。その方が、「心配な分野」の順位がはっきりでてるのではないかと。
大阪市障がい者施策推進協議会 発達障がい者支援部会	令和2年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では頑張り過ぎたり、よい子でいるためしんどくなり、不登校に至るケースについて、事前に情報提供できる項目があればよい。 ・「急に後ろからタッチするのはダメ」等、これだけはアウトということが目立つように入っていると学級担任はとても助かる。 ・「生活面での心配」の項目をもっと具体的にイメージできる表現にしてはどうか。
大阪市こども相談センター 教育相談担当	令和2年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級の担任にとっては、クラス全体のイメージが持てるまで細かい部分を読み込んで、個別のイメージを持つことは難しいように思えるので、その中で、良いところに着目しやすい項目立てになっているのは良いと思う。 ・最初の2ページに当面必要な情報が書かれているのは良いと思う。 ・この情報共有ツールは、基本的に通常学級で過ごす、またはグレーゾーンの子ども達を対象に作成されているというイメージがある。
大阪市教育委員会事務局 インクルーシブ教育推進担当	令和2年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・この情報共有ツールを使って、保護者と先生がやりとりして一緒に子どもについて考えていけることが重要であると思う。 ・保育所園や幼稚園の先生に周知して、心配で相談してきた、もしくはグレーゾーンの子どもや特徴があるにも関わらず気づきにくい保護者の方に理解してもらおうツールに使ってもらおうと良いと思う。 ・普及啓発について、職員（教員）研修の中で注意喚起する機会があった方が良いと思う。家庭と福祉と教育の引継ぎ連携～トライアングルプロジェクトで連携していこうという通達が出ている。HPにアップする際に、情報共有ツールとともに使い方の例が載っているマニュアルが必要であると思う。保護者の方たちには、わからなければ保育所園、幼稚園の先生に聞いて一緒に作ることを勧めると良いと思う。失くしてしまいがちな保護者の場合は、許可を得て学校が管理することも。
発達障がい児専門療育機関の 支援者	令和2年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所園の先生からのコメントを記載する欄は、どんなことを情報提供すると良いか、記入例で分かるようにしておいた方が良いと思う。行事の時と日常時のことや、時間経過とともにわかる本人の行動や言語コミュニケーションの傾向も。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

試用の効果

保護者に試用後に聞き取りを実施し、その効果を測った。

試用者	対象児童	使用の効果		
		人数	実施時期	効果
ペアレント・トレーニング 参加保護者	小学校 1～4年生	3人	令和3年 2月	・保護者と学校が情報を共有できた。 ・保護者が支援者に情報を伝えられた。伝えるのに使う 予定である。
発達障がい児専門療育機関 利用者、障がい児通所サービ ス利用者の保護者	年長児	4人	令和3年 2月～3月	聞き取り中

～ 情報共有ツールの普及啓発 ～

作成した情報共有ツール「就学前編」を広く市内の関係機関に知ってもらうために、支援者への普及啓発活動を実施し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく。

普及啓発の実施状況

講座名等	日時	対象者	内容
ティーチャーズ・トレーニング	令和3年2月18日	保育所保育士	講座の最後に 紹介・配布
ペアレント・トレーニング実践報告会	令和3年3月5日	保護者・支援者	
親支援講座「ちょっと気になる子どもたちのからだ講座」	令和3年3月22日（予定）	保護者・支援者	

()

「就学前編」情報共有ツール（サポート・ブック）



先生方 へ

- このサポート・ブックは（ ）が初めての小学校生活をよりスムーズに開始できるように、家庭内外での経験や、医療機関、幼稚園、療育機関などの先生方からの情報に基づいて作成しました。
- 小学校や関係機関の先生方と（ ）が困った時の工夫の仕方などを情報共有することで、それぞれの場所でより充実した時間を過ごせるものと思います。
- 先生方にも小学校で（ ）について発見したことを書きこんでいただけるとうれしいです。どうぞよろしく願いいたします。

令和3年 月 日 作成者：（ ）

プロフィール

名 前：

生年月日：

家 族：

住 所：

連 絡 先：

医療機関： ホームドクター …

主治医（発達障がい） …

相談先・支援機関：

診断名（発達障がい）： なし・あり ⇒

てんかん : なし・あり ⇒

その他の疾患 : なし・あり ⇒

薬 : なし・あり ⇒

配慮事項 : なし・あり ⇒

発達・知能検査：なし・あり ⇒

障がい手帳： なし・あり ⇒

いいところリスト

☆できること・がんばっていること

☆特技・とてもくわしいこと

*先生と一緒にたくさんいいところ（具体的な行動）を見つけてください。

好きなこと・落ち着くこと

☆好きなこと

☆落ち着くこと

苦手なこと・不安になりやすいこと

・場所：

・場面：

・ひと：

・食事：

*給食を想定して書きましょう（1口大なら食べる等、形態や食器についても）

・その他：

特 徴

当てはまるものにをつけてください。心配な分野の傾向がわかります。

1. ことば、コミュニケーションの心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
2. 変化への適応の心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
3. 社会性での心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
4. 多動性・衝動性・不注意	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
5. 学習上の心配	<input type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> 話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input type="checkbox"/> 書く	<input type="checkbox"/> 計算する	<input type="checkbox"/> 推論する	<input type="checkbox"/> なし
6. 運動・姿勢の心配	<input type="checkbox"/> バランスが悪い	<input type="checkbox"/> 不器用	<input type="checkbox"/> 姿勢がくずれやすい				
7. 生活面での心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
8. 有効な情報呈示方法	<input type="checkbox"/> 視覚優位	<input type="checkbox"/> 聴覚優位	<input type="checkbox"/> 両方	<input type="checkbox"/> わからない			
9. 感覚の過敏性	<input type="checkbox"/> 視覚	<input type="checkbox"/> 聴覚	<input type="checkbox"/> 触覚（特に顔）	<input type="checkbox"/> 味覚	<input type="checkbox"/> 嗅覚	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> なし
10. 知的な面での心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				

具体的には…

支援者の先生と相談しながら、具体的に心配している項目についてチェックしてください。

当てはまるものにを記入してください。困っている分野の傾向がわかります。

お助けアイデアは、具体的には6頁をご覧ください。

具体的には	お助けアイデア
<input type="checkbox"/> 1 困った時に助けを求めることができない	工夫 1
<input type="checkbox"/> 2 話す内容が年齢に比べて幼ないように思う	工夫 2
<input type="checkbox"/> 3 一方的な会話がが多い	工夫 3
<input type="checkbox"/> 4 人の話を聞いて理解するのが苦手 ～一斉指示は無関係と思いがち	工夫 4
<input type="checkbox"/> 5 複数の指示を覚えるのが苦手	工夫 5

具体的には	お助けアイデア
□ 6 見て理解することが得意 ～禁止の指示は見た方がわかりやすい	工夫6
□ 7 予定の変更を受け入れにくい	工夫7
□ 8 新しいもの、場所、人を受け入れにくい ～環境の変化に敏感	工夫8
□ 9 一つのことにあまりやすい ～興味：車、こだわり：勝敗、順番、道順	
□ 10 ひとり遊びが好き	配慮1
□ 11 ルールや社会的な約束ごとがわかりにくい	工夫9
□ 12 思い通りに事が進まなかった時、イライラが高じやすい	工夫10
□ 13 思ったことを悪気なく口にして、友達とケンカになる ことがある	工夫11
□ 14 集団で行動することが苦手	配慮1
□ 15 いつもおしゃべりしている	
□ 16 じっとすわっていることが苦手 ～立ち歩いてしまう	工夫12
□ 17 気が散りやすく先生の話聞きのがす、聞き間違える	工夫4
□ 18 忘れ物・なくし物が多い	工夫13
□ 19 行事等でいつもと違う雰囲気になるとテンションが上がり、 多動になる	配慮2
□ 20 一つのことをやり続けることが苦手	工夫14
□ 21 興味の対象が次々に変わる	
□ 22 正しい発音ができにくい	工夫15
□ 23 文字を読む、書くことがとても苦手	工夫16
□ 24 数える、計算することがとても苦手	工夫17

具体的には	お助けアイデア
<input type="checkbox"/> 25 絵を描くことがとても苦手	工夫18
<input type="checkbox"/> 26 遊具であそぶこと（縄跳び、鉄棒、一輪車など）が苦手	
<input type="checkbox"/> 27 姿勢を保つのが苦手	工夫19
<input type="checkbox"/> 28 不器用	
<input type="checkbox"/> 29 トイレに見守り・配慮が必要	
<input type="checkbox"/> 30 整理整頓、準備、片づけ（登下校時や授業の時等）が苦手	工夫20
<input type="checkbox"/> 31 給食を食べる時に見守り・配慮が必要	
<input type="checkbox"/> 32 偏食がある	配慮3
<input type="checkbox"/> 33 着替えるときに見守り・配慮が必要	
<input type="checkbox"/> 34 スピーカー等の大きな音が苦手で行事に参加できにくい	配慮4
<input type="checkbox"/> 35 感覚の敏感さのために難しい活動（のりづけ、プールなど）がある	配慮5
<input type="checkbox"/> 36 その他（ ）	

☆困っている（心配な）分野

*先生に相談したい優先順位：1～3まで

記入者（ ）

☑がついた番号	チェック数	心配な優先順位	困っている（心配な）分野
① ② ③ ④ ⑤ ⑫	4 / 6		ことば、コミュニケーションの心配
⑦ ⑧ ⑨	3 / 3		変化への適応の心配
⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮	5 / 5		社会性での心配
⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑	1 / 7		多動性・衝動性・不注意の心配
㉒ ㉓ ㉔ ㉕	1 / 4		学習上の心配
㉖ ㉗ ㉘	3 / 3		運動・姿勢の心配
㉙ ㉚ ㉛ ㉜	1 / 4		生活面での心配
⑥ ⑰	1 / 2		有効な情報呈示方法
㉚ ㉛ ㉜	3 / 3		感覚の過敏性

先生方からの情報

☆保育所・園で：

記入日 年 月 日

☆療育機関などで：

記入日 年 月 日

☆小学校で：入学から1か月間の様子を教えてください。 記入日 年 月 日

活用しているいろいろな工夫

いろいろな工夫例の写真など

検査結果のまとめ

☆主治医、心理士、専門スタッフより

☆保護者より

大阪市の就学相談

☆就学相談の窓口 … 地域小学校

- インターネット … にぎわいネット「障がいがあるお子さんの就学相談情報」

<http://www.ocec.jp/shidoubu/index.cfm/9,0,15.html>

- 電話 … 大阪市教育委員会指導部 インクルーシブ教育推進担当
支援学校等への就学相談 Tel. 06-6327-1017

参考資料：お助けアイデアのいろいろ

心理教育学的に有効であるとされている支援方法のいくつかをご紹介します。
すぐに役立つような方法があればご参考・ご活用ください。

工夫 1：授業中、助けてほしいことや質問があるときにヘルプ（☆）

カードを机の上におくと先生が順番に来てくれるシステムは便利。

工夫 2：うまく話せない時は、ゆっくり聞きながら本人が話したいことをことばを補足しつつ話すことで会話が成立しやすくなることが多い。

工夫 3：順番を交代を意識するゲームや課題を一緒にして交代を練習する。

発言の順番や「話す人」「聞く人」が視覚的に明示されているとよりわかりやすい。

工夫 4：名前をよぶなどして注意喚起してから一斉指示する、一斉指示の後で個別に確認する等で確実に指示内容を理解しやすくなる。

工夫 5：板書、メモ等で指示内容が呈示されていると再確認しやすい。

工夫 6：ルールや禁止の指示等は、図やマーク、ポスター、短文等で見える形で呈示する方がわかりやすい。

工夫 7：見える形でスケジュールを呈示しておき、変更もそのスケジュール上で見える形で伝えると気持ちを切り替えやすい。

工夫 8：あらかじめ、初めての場所・活動・ひとについての情報を伝えておく。可能であれば予行演習する。不安になった時にはどうするかも話し合っておく（別室に落ち着きに行く、等）。

工夫 9：社会的な約束事・ルールを明記して伝える。

工夫 10：イライラしてきたときは静かで落ち着く場所へ誘導する。

予想通りに進まないことがあるかもしれないことを事前に伝えておくことも1つの方法。

工夫11：落ち着いてから、本人・相手の気持ちや行動をマンガで見える化しながら話し合い状況を共有する。どうすればよいか話し合った後で、周囲・相手と問題解決することを促す。

工夫12：授業の流れを見える化（①～②～③～）したり、授業を区切って構成する（15分×3など）、集中が続きにくい子にはプリント1枚中の課題数を減らす等、課題の量とレベルを工夫するとよい。

工夫13：箇条書きされた連絡事項を連絡帳に記入し、家庭で必ず内容を確認することを連携して取り組み習慣化。チェックリストを使うのも便利。忘れ物をした時にどうするかも決めておくと安心できる。

工夫14：宿題をする時は、すぐにできそうな量、集中して取り組みそうな時間に調整して、好き・得意な内容から取り組む。

工夫15：おとなが聞き取って話す楽しさを維持する。発音が不明瞭なために同級生との会話に困る場合は、ことばの相談に行ってみるのもよい。

工夫16：読みが苦手…文字を拡大する、行間をあける、定規を使い1行ずつ見えるようにする、読めない漢字にルビをふる、句読点に色をつける、文節ごとにスラッシュ（/）を入れる、といった工夫の他に、絵や図や口頭の説明で内容をイメージできるようにすることも効果的。。

書きが苦手…量と大きさを調整する。個人に合った量と方法（漢字九九など）で書く練習をするとともに、PCやひらがなゲーム等で文字の構成を楽しみながら学習していくとよいと思われる。

工夫17：計算が苦手…

工夫18：絵を描くのが苦手…

工夫19：姿勢保持しやすい座布団（Qチェアマット）などを使う。

メリハリをつけて練習していく（板書を写す時だけ良い姿勢、等）。

工夫20：仕切りなどの片づけツールやチェックリストを活用する。

整理整頓された机の写真を見本として示す

配慮1：休み時間に教室で本を読むなどひとりで過ごす時間を確保していただくと安心して1日を過ごすことができる。

配慮2：あらかじめどこでどんな活動をするか見える形で伝えておいていただく。スケジュールの中に落ち着くために休憩スペースに行くことが入っていたり刺激が入りすぎない場所にいるように配慮していただくと有難い。

配慮3：苦手な食べ物は量を減らしてトライする、本人の申請のもとで最初から盛り付けない、残す、という選択肢も設けていただくと安心して給食の時間に臨める。

配慮4：聴覚過敏がある。イヤマフ等のお助けグッズの使用や音量を下げる、運動会でのアナウンス方法を変える等環境を調整することを検討していただけるととても有難い。

配慮5：のりづけはスティックのりで行う、顔が敏感な場合はプールで顔つけなしでOK等、各児の感覚の敏感さに応じて配慮していただけると有難い。

☆発達障がいや教室での支援方法、実践例などの詳しい情報は、にぎわいネット「発達障がい理解のとびら」をご参照ください、

<http://www.ocec.ne.jp/shidoubu/tkbs/>

名前または親しみやすい
愛称を記入してください

エルム 花子（はなちゃん）

「就学前編」情報共有ツール（サポートブック）

記入例



先生方 へ

就学する小学校の先生方
に向けて保護者の方が作
成されることを想定して
考案したサポートブック
です。

- このサポート・ブックは（エルム花子）が初めての小学校生活をよりスムーズに開始できるように、家庭内外での経験や、医療機関、幼稚園、療育機関などの先生方からの情報に基づいて作成しました。
- 小学校や関係機関の先生方と（エルム花子）が困った時の工夫の仕方などを情報共有することで、それぞれの場所でより充実した時間を過ごせるものと思います。
- 先生方にも小学校で（エルム花子）について発見したことを書きこんでいただけるとうれしいです。どうぞよろしく願いいたします。

令和3年〇月〇日

作成者：（エルム花代）

プロフィール

名 前： エルム ^{はなこ}花子
生年月日： 平成〇〇年〇〇月〇〇日 6歳 0ヵ月
家 族： 父、母、兄、弟
住 所： 大阪市 〇〇区△△ X丁目〇番△号
連絡先： 携 帯 母 XXX-XXXX-XXXX
自 宅 06 -XXXX-XXXX

医療機関： ホームドクター …〇〇病院△△Dr (風邪など)
主治医 (発達障がい) …〇〇クリニック △△Dr
相談先・支援機関： こども相談センター
〇〇児童デイ

相談先、通っている療育機関。習い事や学習塾等もサポートされていれば記入しましょう

診断名 (発達障がい)： なし・**あり** ⇒ ASD + LD (読み書き障がい)
てんかん : **なし**・**あり** ⇒
その他の疾患 : なし・**あり** ⇒ そばアレルギー、アトピー

薬 : なし・**あり** ⇒ アトピー性皮膚炎の軟膏

配慮事項 : なし・**あり** ⇒ 食物 (そば) と汗・暑さについて配慮が必要

発達・知能検査： なし・**あり** ⇒ IQ 85 (WISC-IV)

障がい手帳： なし・**あり** ⇒ 精神障がい者保健福祉手帳3級

検査結果や意見書があれば資料としてコピーを添付されるとよいと思います。

いいところリスト

先生方と一緒に、努力してできていること、続けてできていることをたくさん見つけて記入してください。

☆できること・がんばっていること

- とてもまじめです。保育園はちょっと苦手ですが、毎日通園しています。
- お手伝いも一生懸命します。今、家では洗濯物をたたむ練習をしています。
- 熱帯魚のお世話は彼女の大切な仕事の1つです。

「～にうれしい」ことや得意なことは、余暇が充実し自尊心・自己肯定感を育くむだけでなく、級友との話のきっかけになる可能性があります。

☆特技・とてもかわいいこと

- お魚博士です。海遊館に行ってからジンバイザメも大好きになりました。
- 食べること・料理することも大好きです。

*先生と一緒にたくさんいいところ（具体的な行動）を見つけてください。

好きなこと・落ち着くこと

☆好きなこと • 魚、水族館、釣り、水遊び、愛猫ミケとふれあうこと

• タオルケットにくるまっていること、ブランコ

☆落ち着くこと • 場所：園長室、せまくて静かな所

(ソファの裏側等) ⇒小学校では…

• もの：タオルケット、水、ぬいぐるみ

• 活動：絵を描く、魚の本や動画・写真を見る、他

• 食物：チョコレート、飴（食べると落ち着く）

好きなこと・落ち着くことを知っていると、不安になりそうな時に気持ちを立て直すのに役立ちます。学校の中で落ち着きそうな場所もご本人、先生と相談して決めておくとよいでしょう。

苦手なこと・不安になりやすいこと

- 場所：混雑したところ、音の響きやすいところ、初めて行くところ
- 場面：予定や人の急な変更、行事（学芸会、参観、避難訓練）
- ひと：赤ちゃん、初めて会う人、人が急に寄ってくるとびっくりする
- 食事：豆腐、ゼリー、納豆、パン、牛乳が苦手

かむのが苦手なので食べ終わるまでに時間がかかる

*給食を想定して書きましょう（1口大なら食べる等、形態や食器についても）

- その他：突然の大きな音（避難訓練のアナウンスなど）、赤ちゃんの泣き声

苦手なこと・不安になりやすいことをあらかじめ知っておいていただくことで、学校内でのトラブルを回避する可能性が高くなります。不安が高じてパニックになった場合も原因を理解してもらうことにつながります。

発達の特徴

保育所園、幼稚園、療育・相談先の先生と一緒に、それぞれの分野についてどのくらい、何について、心配しているかチェックしてください。

当てはまるものにをつけてください。心配な分野の傾向がわかります。

1. ことば、コミュニケーションの心配	<input checked="" type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
2. 変化への適応の心配	<input checked="" type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
3. 社会性での心配	<input checked="" type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
4. 多動性・衝動性・不注意	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input checked="" type="checkbox"/> なし				
5. 学習上の心配	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> 話す	<input checked="" type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く	<input type="checkbox"/> 計算する	<input type="checkbox"/> 推論する	<input type="checkbox"/> なし
6. 運動・姿勢の心配	<input checked="" type="checkbox"/> バランスが悪い	<input checked="" type="checkbox"/> 不器用	<input checked="" type="checkbox"/> 姿勢がくずれやすい				
7. 生活面での心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input checked="" type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
8. 有効な情報呈示方法	<input checked="" type="checkbox"/> 視覚優位	<input type="checkbox"/> 聴覚優位	<input type="checkbox"/> 両方	<input type="checkbox"/> わからない			
9. 感覚の過敏性	<input type="checkbox"/> 視覚	<input checked="" type="checkbox"/> 聴覚	<input checked="" type="checkbox"/> 触覚（特に顔）	<input checked="" type="checkbox"/> 味覚	<input type="checkbox"/> 嗅覚	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> なし
10. 知的な面での心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input checked="" type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				

具体的には…

支援者の先生と相談しながら、具体的に心配している項目についてチェックしてください。

当てはまるものにを記入してください。困っている分野の傾向がわかります。

お助けアイデアは、具体的には6頁をご覧ください。

具体的には	お助けアイデア
<input checked="" type="checkbox"/> 1 困った時に助けを求めることができない	工夫 1
<input type="checkbox"/> 2 話す内容が年齢に比べて幼ないように思う	工夫 2
<input checked="" type="checkbox"/> 3 一方的な会話がが多い	工夫 3
<input checked="" type="checkbox"/> 4 人の話を聞いて理解するのが苦手 ～一斉指示は無関係と思いがち	工夫 4
<input checked="" type="checkbox"/> 5 複数の指示を覚えるのが苦手	工夫 5

具体的には	お助けアイデア
<input checked="" type="checkbox"/> 6 見て理解することが得意 ～禁止の指示は見た方がわかりやすい	工夫6
<input checked="" type="checkbox"/> 7 予定の変更を受け入れにくい	工夫7
<input checked="" type="checkbox"/> 8 新しいもの、場所、人を受け入れにくい ～環境の変化に敏感	工夫8
<input checked="" type="checkbox"/> 9 一つのことにあまりやすい ～興味：車、こだわり：勝敗、順番、道順	
<input checked="" type="checkbox"/> 10 ひとり遊びが好き	配慮1
<input checked="" type="checkbox"/> 11 ルールや社会的な約束ごとがわかりにくい	工夫9
<input checked="" type="checkbox"/> 12 思い通りに事が進まなかった時、イライラが高じやすい	工夫10
<input checked="" type="checkbox"/> 13 思ったことを悪気なく口にして、友達とケンカになる ことがある	工夫11
<input checked="" type="checkbox"/> 14 集団で行動することが苦手	配慮1
<input type="checkbox"/> 15 いつもおしゃべりしている	
<input type="checkbox"/> 16 じっとすわっていることが苦手 ～立ち歩いてしまう	工夫12
<input type="checkbox"/> 17 気が散りやすく先生の話聞きのがす、聞き間違える	工夫4
<input checked="" type="checkbox"/> 18 忘れ物・なくし物が多い	工夫13
<input type="checkbox"/> 19 行事等でいつもと違う雰囲気になるとテンションが上がり、 多動になる	配慮2
<input type="checkbox"/> 20 一つのことをやり続けることが苦手	工夫14
<input type="checkbox"/> 21 興味の対象が次々に変わる	
<input type="checkbox"/> 22 正しい発音ができにくい	工夫15
<input checked="" type="checkbox"/> 23 文字を読む、書くことがとても苦手	工夫16
<input type="checkbox"/> 24 数える、計算することがとても苦手	工夫17

具体的には	お助けアイデア
<input type="checkbox"/> 25 絵を描くことがとても苦手	工夫18
<input checked="" type="checkbox"/> 26 遊具であそぶこと（縄跳び、鉄棒、一輪車など）が苦手	
<input checked="" type="checkbox"/> 27 姿勢を保つのが苦手	工夫19
<input checked="" type="checkbox"/> 28 不器用	
<input type="checkbox"/> 29 トイレに見守り・配慮が必要	
<input checked="" type="checkbox"/> 30 整理整頓、準備、片づけ（登下校時や授業の時等）が苦手	工夫20
<input type="checkbox"/> 31 給食を食べる時に見守り・配慮が必要	
<input checked="" type="checkbox"/> 32 偏食がある	配慮3
<input type="checkbox"/> 33 着替えるときに見守り・配慮が必要	
<input checked="" type="checkbox"/> 34 スピーカー等の大きな音が苦手で行事に参加できにくい	配慮4
<input checked="" type="checkbox"/> 35 感覚の敏感さのために難しい活動（のりづけ、プールなど）がある	配慮5
<input type="checkbox"/> 36 その他（ ）	

☆困っている（心配な）分野

支援者の先生と一緒に、心配な優先順位を1番目から3番目まで決めて記入してください。

*先生に相談したい優先順位：1～3まで

記入者（ ）

☑がついた番号	チェック数	心配な優先順位	困っている（心配な）分野
① ② ③ ④ ⑤ ⑫	4 / 6		ことば、コミュニケーションの心配
⑦ ⑧ ⑨	3 / 3	2	変化への適応の心配
⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮	5 / 5	3	社会性での心配
⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑	1 / 7		多動性・衝動性・不注意の心配
㉒ ㉓ ㉔ ㉕	1 / 4		学習上の心配
㉖ ㉗ ㉘	3 / 3		運動・姿勢の心配
㉙ ㉚ ㉛ ㉜	1 / 4		生活面での心配
⑥ ⑰	1 / 2		有効な情報呈示方法
㉚ ㉛ ㉜	3 / 3	1	感覚の過敏性

先生方からの情報

☆保育所・園で：

記入日 R2年10月1日

入学前：園の先生に、クラス、行事などでのご本人の様子や工夫など、就学に向けて役立ちそうな情報を記入してもらってください。

☆療育機関などで：

記入日 R2年11月5日

入学前：ご本人の発達障がいの特性や、療育機関で活用している環境調整や支援の工夫など、就学に向けて役立ちそうな情報を記入してもらってください。

☆小学校で：入学から1か月間様子を教えてください。 記入日 R3年4月 日

初めての環境（小学校）の中でご本人がどのように過ごしているか、この時期が一番不安ですよ。困っていることについては早めに対策を考えていくことができるし、楽しく過ごせていることがわかるとご家族は安心ですね。

活用しているいろいろな工夫

就学に向けて、ご本人と担任の先生が学校内で便利だな、と思って活用できそうな、現在活用している工夫・配慮事項があれば、視覚情報も入れてご紹介ください。

いろいろな工夫例の写真など

検査結果のまとめ

☆主治医、心理士、専門スタッフより

検査の種類、実施機関、検査日、
結果（IQ、DQ、強味・弱み）、
検査者・主治医の意見・助言、 など

☆保護者より

読み書き障がいがあるため、小学校で学習をすすめていく際には
デジタル教科書等、読み書きを助けてくれるツールを使用するなど
のサポートがあると助かります。

大阪市の就学相談

☆就学相談の窓口 … 地域小学校

- インターネット … にぎわいネット「障がいがあるお子さんの就学相談情報」

<http://www.ocec.jp/shidouubu/index.cfm/9,0,15.html>

- 電話 … 大阪市教育委員会指導部 インクルーシブ教育推進担当
支援学校等への就学相談 Tel. 06-6327-1017

参考資料：お助けアイデアのいろいろ

心理教育学的に有効であるとされている支援方法のいくつかをご紹介します。
すぐに役立つような方法があればご参考・ご活用ください。

工夫 1：授業中、助けてほしいことや質問があるときにヘルプ（☆）

カードを机の上におくと先生が順番に来てくれるシステムは便利。

工夫 2：うまく話せない時は、ゆっくり聞きながら本人が話したいことをことばを補足しつつ話すことで会話が成立しやすくなることが多い。

工夫 3：順番を交代を意識するゲームや課題を一緒にして交代を練習する。

発言の順番や「話す人」「聞く人」が視覚的に明示されているとよりわかりやすい。

工夫 4：名前をよぶなどして注意喚起してから一斉指示する、一斉指示の後に個別に確認する等で確実に指示内容を理解しやすくなる。

工夫 5：板書、メモ等で指示内容が呈示されていると再確認しやすい。

工夫 6：ルールや禁止の指示等は、図やマーク、ポスター、短文等で見える形で呈示する方がわかりやすい。

工夫 7：見える形でスケジュールを呈示しておき、変更もそのスケジュール上で見える形で伝えると気持ちを切り替えやすい。

工夫 8：あらかじめ、初めての場所・活動・ひとについての情報を伝えておく。可能であれば予行演習する。不安になった時にはどうするかも話し合っておく（別室に落ち着きに行く、等）。

工夫 9：社会的な約束事・ルールを明記して伝える。

工夫 10：イライラしてきたときは静かで落ち着く場所へ誘導する。

予想通りに進まないことがあるかもしれないことを事前に伝えておくことも1つの方法。

工夫11：落ち着いてから、本人・相手の気持ちや行動をマンガで見える化しながら話し合い状況を共有する。どうすればよいか話し合った後で、周囲・相手と問題解決することを促す。

工夫12：授業の流れが見える化（①～②～③～）したり、授業を区切って構成する（15分×3など）、集中が続きにくい子にはプリント1枚中の課題数を減らす等、課題の量とレベルを工夫するとよい。

工夫13：箇条書きされた連絡事項を連絡帳に記入し、家庭で必ず内容を確認することを連携して取り組み習慣化。チェックリストを使うのも便利。忘れ物をした時にどうするかも決めておくと安心できる。

工夫14：宿題をする時は、すぐにできそうな量、集中して取り組みそうな時間に調整して、好き・得意な内容から取り組む。

工夫15：おとなが聞き取って話す楽しさを維持する。発音が不明瞭なために同級生との会話に困る場合は、ことばの相談に行ってみるのもよい。

工夫16：読みが苦手…文字を拡大する、行間をあける、定規を使い1行ずつ見えるようにする、読めない漢字にルビをふる、句読点に色をつける、文節ごとにスラッシュ（/）を入れる、といった工夫の他に、絵や図や口頭の説明で内容をイメージできるようにすることも効果的。

書きが苦手…量と大きさを調整する。個人に合った量と方法（漢字九九など）で書く練習をするとともに、PCやひらがなゲーム等で文字の構成を楽しみながら学習していくとよいと思われる。

工夫17：計算が苦手…

工夫18：絵を描くのが苦手…

工夫19：姿勢保持しやすい座布団（Qチェアマット）などを使う。

メリハリをつけて練習していく（板書を写す時だけ良い姿勢、等）。

工夫20：仕切りなどの片づけツールやチェックリストを活用する。

整理整頓された机の写真を見本として示す

配慮1：休み時間に教室で本を読むなどひとりで過ごす時間を確保していただくと安心して1日を過ごすことができる。

配慮2：あらかじめどこでどんな活動をするか見える形で伝えておいていただく。スケジュールの中に落ち着くために休憩スペースに行くことが入っていたり刺激が入りすぎない場所にいるように配慮していただくと有難い。

配慮3：苦手な食べ物は量を減らしてトライする、本人の申請のもとで最初から盛り付けない、残す、という選択肢も設けていただくと安心して給食の時間に臨める。

配慮4：聴覚過敏がある。イヤマフ等のお助けグッズの使用や音量を下げる、運動会でのアナウンス方法を変える等環境を調整することを検討していただけるととても有難い。

配慮5：のりづけはスティックのりで行う、顔が敏感な場合はプールで顔つけなしでOK等、各児の感覚の敏感さに応じて配慮していただけると有難い。

☆発達障がいや教室での支援方法、実践例などの詳しい情報は、にぎわいネット「発達障がい理解のとびら」をご参照ください、

<http://www.ocec.ne.jp/shidoubu/tkbs/>